

# 生ごみを減量させましょう!

生活していれば、必ず出てくる生ごみ。食べ残し、魚の骨、野菜の皮・・・。

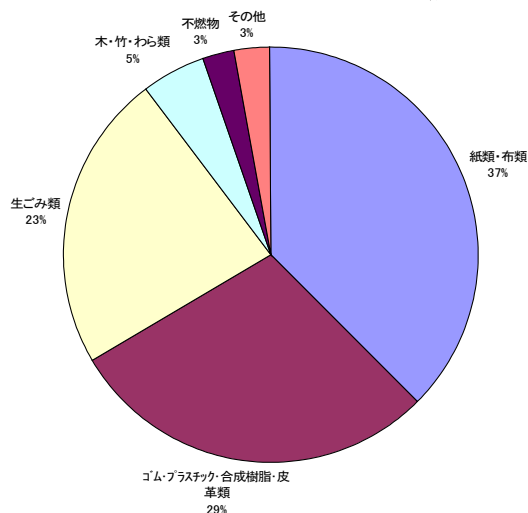
3R (Reduce:ごみを出さない Reuse : 再使用 Recycle : 再資源化) の考え方からいくと、完食すること・作りすぎないことが1番大事です。生ごみを出さないように努めましょう! 次にでてくるのが再使用となりますが、生ごみを再使用することはなかなか難しいことだと思います。そうすると、再資源化。堆肥にして使うのも1つですね。

堆肥化するためには、電動処理機を利用したり・コンポストを利用し有用微生物群を利用するなど方法はたくさんあります。各家庭の用途に合った方法を選びましょう!

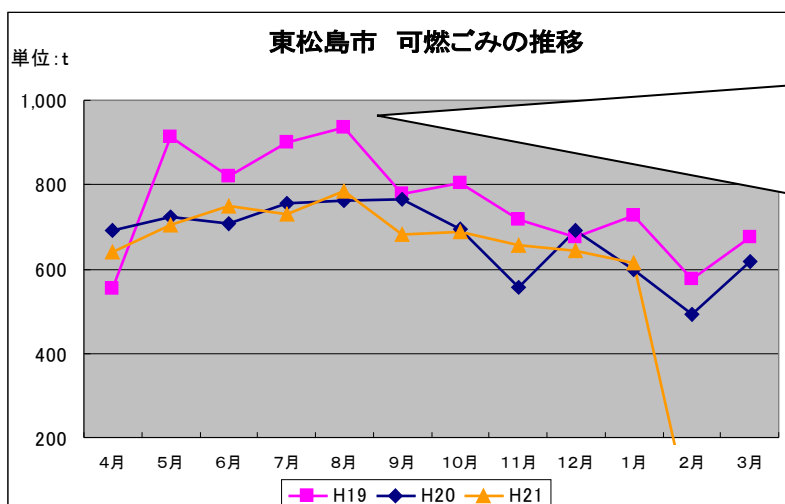
最後の手段として可燃ごみへ出すこととなります。その際は、何度もお願いしていることですが、”水切りの徹底”をしてください。

過去のデータをみると、約3割を占めている「生ごみ」。説明会をする度に、「生ごみをだすときには、水切りを徹底してください」と皆さんへお願いしてきたところ減少傾向になってきています。

平成20年度  
可燃ごみの組成



(H22.1月末現在)



年間の総量は減少傾向にあります。しかし、夏場に増加する傾向は変わりません。上図は年間の平均の組成ですが、夏場だけの組成をみると生ごみの割合が約3割となります。

生ごみ処理をするのにどのような方法が適しているのか参考にしてみてください。

		電動処理機	密閉式バケツ	コンポスター	ダンボール箱
大きさ		中～大 <small>(バイオ型は洗濯機サイズ。乾燥型はその半分)</small>	小 <small>(普通のバケツよりやや大きめ)</small>	大～特大 <small>(洗濯機サイズから冷蔵庫サイズ)</small>	小～中 <small>(ミカン箱サイズから)</small>
設置場所	台所	◎ 乾燥型のみ	○	×	△ 臭気次第
	勝手口	○ 中型	◎	×	△ 臭気次第
	軒下	◎ 雨よけ必要	◎	×	◎ 雨よけ必要
	ベランダ	◎ 雨よけ必要	○ 雨よけ必要	×	◎ 雨よけ必要
	庭	×	×	○～◎	○ 雨よけ必要
	田畑	×	×	◎	△ 雨よけ必要
	集合住宅	◎	△～○ 臭気抑制次第	×	△～○ 臭気・虫の抑制次第
最適設置場所		台所・ベランダ・軒下	勝手口・軒下	広い庭・畑	ベランダ・軒下

	電動処理機	密閉式バケツ	コンポスター	ダンボール箱
初期コスト	5万～8万	2千円前後	5千～1万円 容量次第	廃品利用 自作
初期コスト (その他)	1千～1,500円 電気代・資材代	300～500円程度 発酵資材代	なし	ガムテープ代等
維持費 (1ヶ月当たり)	1千～5千円 発酵基材・資材代	300～500円程度 発酵資材代	なし	なし
補助金額(円)	1/2、上限25,000円	1/2、上限3,000円	1/2、上限3,000円	なし
3年間のコスト (本体+維持費)	6.7～9.9万円	1.2～1.95万円	0～7千円	0～1千円
経済性	×	△	○	◎ 雨よけ必要

	電動処理機	密閉式バケツ	コンポスター	ダンボール箱
臭気の抑制	○	×～○ 密閉状態では問題なし	×	△ 発酵熱利用
虫の抑制	◎	△～○	×	△ 発酵熱利用
生ごみ処理のし易さ	○ 処理機に入れてボタンを押すだけ	○ 入れ発酵資材をまくだけ	△ 外まで運ぶ必要あり	○ 箱の中の土に埋めるだけ
処理物の扱い易さ	△～○ 台所での作業は多少汚れる	×～△ 臭いが強い	×～△ 量が多く作業が大変	△ 段ボール箱の移動は大変
処理物の熟成度	△～○ 機種によって異なる	×	○～◎ ただし熟成に長期間	○ 生ごみ消滅型として利用できる
処理物の取出し不要期間(1ヶ月を基準)	×～○ 1日～数ヶ月(機種による)	△ 約1ヶ月 (液肥は毎日抜く必要)	○～◎ 半年～1年	○～◎ 数ヶ月～数年
処理物利用先(庭・農園)確保の不要度	× 乾燥・バイオ型 △～○ 消滅型	×	△ 堆肥化物の利用先確保が不可欠	△～○ 必ずしも確保の必要はない
扱い易さ総合	○～◎ 堆肥の利先確保が課題	△ 臭気等に慣れる必要あり	△ 外まで運ぶ必要あり	△～○

	電動処理機	密閉式バケツ	コンポスター	ダンボール箱
生ごみ処理方法の自然度	× 電気(乾燥型) × 電気と微生物利用(ハイタイプ)	○ 微生物の活用 発酵資材の定期購入の必要あり	◎ 自然のプロセスの活用 虫や土中微生物等	◎ 自然のプロセスの活用 土中微生物など
温暖化ガスの抑制	× 主に製造・流通・使用时発生	△ 主に製造・流通時に発生	△ 主に製造・流通時に発生	◎ 廃品利用のため発生なし
機器・容器材質	プラスチック金属、その他	プラスチック	プラスチック	紙
機器・容器の処理	難 焼却不可	比較的容易 焼却可能	比較的容易 焼却可能	容易 焼却可能
環境への優しさ	×	△～○	○	◎

	電動処理機	密閉式バケツ	コンポスター	ダンボール箱
経済性	×	△	○	◎ 雨よけ必要
扱い易さ総合	○~◎ 堆肥の利先確保が課題	△ 臭気等に慣れる必要あり	△ 外まで運ぶ必要あり	△~○
環境への優しさ	×	△~○	○	◎
最適設置場所	台所・ベランダ・軒下	勝手口・軒下	広い庭・畑	ベランダ・軒下
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉目的での普及に意義あり</li> <li>・堆肥化物の利用先確保(市民農園など)の必要性あり</li> <li>・堆肥化物が廃棄される場合は、堆肥化物が他のゴミの水分を吸収することがないように回収する方法等を開発する必要性あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熟達することが必要なため定期的な講習会やアドバイザー体制を整える必要あり</li> <li>・堆肥化物の利用先確保(市民農園など)の必要性あり</li> <li>・発酵資材の入手先確保の必要性あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村部に最適</li> <li>・都市部では生ゴミよりも剪定くずの多い家庭向き</li> <li>・主に農村部を対象に購入購入補助をおこなっていく意義大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手軽で子供・老人でもOK</li> <li>・今後、普及・啓蒙活動をおこなっていく意義大</li> <li>・他の方法と違い、購入助成制度を整備する必要がなく財政負担が少なくてすむ。</li> </ul>



屋内型堆肥化容器（密閉式バケツ）



屋外型堆肥化容器



ダンボール箱



電動生ごみ処理機（乾燥式）



電動生ごみ処理機（乾燥式）